

# 木頭杉間伐材で雑貨製造

## 廣間組

建設業の廣間組（那賀町）が、過疎高齢化が急速に進む地域の活性化と自社の生き残りを懸け、地元の木頭杉の間伐材を有効活用する新事業に力を入れている。オリジナルの木製雑貨を企画、製造して県内外へ販路を広げており、主力商品の箸は発売から1年弱で約2千膳を売り上げた。第2の収益源として伸ばしたいと考えて、地域の雇用や森林保全につなげ、本業の建設業にプラスの効果を生むことも目指している。

木製品を製造販売するを中心に、コースター 徳島市の東新町商店街の完全子会社「Wood」やキーホルダーなど10に開設する交流スペース「Head（ウッド種類）があり、インス「OLUYO（オルヘッド）」を2017ターネットなどで販売「ヨ」では五稜箸が人気商品に名を連ねる。

年6月、資本金300万円で設立した。18年 徳島阿波おどり空港 製造は、本社近くの6月には木頭杉の心材や阿波おどり会館、県割り箸工場跡地に構えを加工し、無塗装で仕内の個人商店などにもた工房で職人3人が従上げた五角形の箸「五並べ、解散したロック事する。5年後の年間稼働」（800円）をバンド・チャットモン 売上高5千万円を目標商品化。現在は五稜箸 チーの福岡晃子さんか にしているという。

## オリジナルの箸 好評

## 活性化と収益源 目指す

地元の間伐材を使った商品開発に取り組む西田専務（左）那賀町木頭和無田のWood Headの工房



さらなる知名度アップに向け、6月2日、徳島市立木工会館で組の取り組みを説明するパネル展示も併せて約200点を集めた展覧会を開催。廣間組の取り組みを説明するパネル展示も併せて約200点を集めた展覧会を開催。廣間組の取り組みを説明するパネル展示も併せて約200点を集めた展覧会を開催。

同社によると、那賀町内の山林の大半は人工林で、林業の衰退などで間伐が進まず、地盤が弱って風雨による倒木が増えている。景観が損なわれるだけでなく、災害リスクも高まるため、間伐材に価値を見だし、間伐推進や雇用創出につなげようと、新事業の立ち上げを決めた。

木製品事業が成長すれば雇用を増やし、建設業の繁忙期にはグループ内で人手の融通をするなど、相乗効果にも期待する。

ウッドヘッドの社長を務める西田靖人専務は「商品を通して木頭を知ってもらい、交流人口を増やせればうれしい」と話している。

（中野田梨）